

「地域とともに作る植物標本集ーハーバリウム・霧多布ー」

特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト

1. スライド2「ハーバリウム・霧多布とは？」

- 1) 「ハーバリウム」というと、ビンの中にドライフラワーと油を入れて作る、インテリア雑貨が有名です。しかし本来「herbarium ハーバリウム」とは、植物の標本を集めたものを意味します。
- 2) 標本は保存状態が良ければ100年以上保管することができます。実物を保管することになるので、「この時代、ここに、このような植物が生えていた」という確実な証拠になります。この情報は現在だけではなく、将来の調査研究、環境教育の基礎資料として、役立てることができません。
- 3) 当団体では2011年より、釧路市立博物館や地域のボランティアとともに、浜中町に生育する全植物の押し葉標本を作る活動「ハーバリウム・霧多布」を実施中です。

2. スライド3「これまでの成果」

- 1) 本活動で2019年までに収集できた植物は447種類、1,703点作りました。標本は1種類につき3点ずつ作成し、浜中町の他にも釧路市や鶴居村に分散して保管しています。こうすることで津波や火災などによって、消失する事態にも備えています。
- 2) 標本収集以外にも、活動の成果を利用して展示会や観察会を実施しています。このように実際に活用することで、より多くの方々に、本事業への理解や協力をお願いするとともに、調査に参加する方々のモチベーションの維持につなげています。
- 3) 事業を始めてから10年目に入り、そろそろゴールを設定しなくてはならない段階に入りました。事業結果を利用して、浜中町で目にする植物が識別できる資料にすれば、教育現場や観光に役立つのではないかと考えています。そこで事業の成果をもとに2024年度に浜中町の植物図鑑を製作することを計画しています。

3. スライド4「課題」

採集した植物の種類数が、事業初期に比べて、近年は伸びない傾向にあります。これは、代表的な植物はほぼ採集できている一方で、イネ科草本や水草など専門家ではないと採集・同定が難しい植物が、採集できていないことが原因として考えられます。よって2020年度からはテーマごとに外部から専門家を招いて、指導を仰ぎながら標本を採集します。

4. スライド5「今年度の事業予定」

2020年度は以下をテーマにして、標本を集めていきます。なお7月は水草、8月はイネ科植物の専門家を外部講師に迎えて、実施する予定です。また新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、当初の予定よりも募集人数を少なくし、3密を避けるなどリスク軽減に努めながら、できる限り進めていきます。